

令和2年度 第1回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和2年7月8日（水）14時から16時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史委員（会長）、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、龜井貴子委員、潮江宏三委員、永田紅委員、野間万里子委員、松下亜樹子委員、安田美樹委員

4 会議の内容

- (1) 令和元年度第3回協議会の議事録要旨について
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策の取組状況について
- (3) 令和元年度取組状況と内部評価及び令和2年度事業計画について
- (4) 京都府立図書館サービス計画（案）について
- (5) その他

5 協議事項

- (1) 令和元年度第3回協議会の議事録要旨について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策の取組状況について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・ 府立図書館が無料の図書のお届けサービスは、国内初ということでニュースになった。具体的にどんな反響があったか。
 - 当初予定より申込みが多くあったので、初日の5時間程度で受付を終了した。
 - 図書館カードを持っていない人の申込みが3分の2程度あり、府立図書館を多くの府民に利用していただいた。
 - 課題としては未返却の本がまだあるので、今後返却に向けて一層取り組んでいきたい。
 - ・ 家庭学習支援事業で送られてきた本を、子どもたちは楽しんで読まさせてもらっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子どもたちの行動も制限されており、教室で過ごす時間が増えている。新品の本がたくさん届いたので、担任の先生たちもすごく喜んで使っている。
 - ・ 子どもの居場所づくりの取組で、不登校の子どもも参加されたのか。今後、夏休みでの実施など考えているのか。
 - 不登校の子どもへの参加があったかはわからない。

- 首相の要請により急きょ学校が休校になったので、子どもの居場所が大きな課題の一つであった。
- 今年は夏休みが短縮される予定であることなどから、現在のところ夏休み期間中の実施については考えていない。

(3) 令和元年度取組状況と内部評価及び令和2年度事業計画について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見
 - ・ 内部評価で「3」の項目が6項目あるが、なぜ「3」なのか。
 - 例えば、「16 知的交流の場の創設」においては、小項目の「ファシリテーターとなる職員の育成」や「フューチャーセンターや発表の場としての機能展開」というところに十分取り組めていなかったため「3」とした。他の5つの項目についても小項目の取組が十分でなかったため「3」とした。
 - ・ 内部評価が「3」となっている項目について、今後とも改善を図るべきものと計画策定時以降の状況変化など項目そのものを見直すべきものは区別した対応が必要である。
 - ・ 遠隔地返却サービスは、まずは体制を整えるということか。
 - ・ 市町村立図書館等に対する図書資料の支援は十分行われており満足している。
 - ・ ウィズコロナの中における図書館運営については、市町村立図書館も手探りの状況である。情報の積極的な収集と提供については、何か新しいことをされるのであれば、早めに情報提供いただきたい。電子図書館についても、何か情報を持っておられたら提供いただきたい。
 - ・ 多くのことに取り組まれ、しっかり行っておられる。高く評価できる。
 - ・ 近代美術館では、駐車料金のサービスもやっているようだ。来館者を増やしたいのであれば何か色々な手立てが必要ではないか。
 - ・ 学校支援セットなど、学校支援については、十分過ぎるぐらい実施されており、高く評価できる。学校現場でも非常に有効に活用できることから、学校への一層の周知が必要である。
 - ・ 評価については、全体的に良い取組が行われているので、高い評価をつけても良いと思う。内部評価は妥当であると考えている。

(4) 京都府立図書館サービス計画（案）について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見
 - ・ 結びの言葉の「実施します」「努めます」「推進します」「図ります」は、どのような使い分けをされているのか。「努めます」というのは、謙遜に言う話の一方で職員に対して負荷を課している言葉ではないか。「努めます」は道徳的な言い方であるので気になった。その辺の文言を検討し直していただきたい。
 - ・ ナレッジベースは、NPO等民間団体との協働した取組ができているのか。広

報とか情報発信の場であるので、いろいろなタイプの民間団体の利用が増えるように、ぜひとも取り組んでいただきたい。

- ・ NPO等民間団体との協働については、府の府民力推進の窓口で協働でやれるような事業プロジェクトがあるかをもう一度、確認すべきである。
 - 府の窓口と十分連携していきたい。
- ・ 新たな所蔵施設に関わっては、令和2年度でも遊休府有地の確認とある。令和2年度で確認ができて、その後、スペースが確保できるのか。若干後退したような印象がある。
- ・ 子ども読書本のしおりコンテストについて、今回送られてきた案内が大変職員に好評である。次期計画からしおりコンテストがなくなるのは残念だ。
 - 子ども読書本のしおりコンテストは、今年度第9回目となる。今後新たな取組になることも考えられるので「子ども読書の日」の記念事業とした。
- ・ 評価の軸が貸出冊数と来館者数であるのはどうか。いろいろな取組を評価できる指標が必要である。
- ・ 生活に密着した図書館は、身近に感じられる学習や生活に身近な情報だと思うので、メディアとして強力に今後も発信していきたい。府立図書館には、メディアを貪欲に利用していただきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、計画したが実施は無理だったということがあっても仕方がない。評価については、柔軟に考えていけたらと思う。
- ・ デジタル化、オンライン化等が進むと思うが、利用できない方もいるので、そういうところへの視点も同時に持っていただきたい。
- ・ 魅力ある図書の存在を広く知っていただきたい。古い教科書など、活用できたら面白いのではないか。
- ・ 子ども読書本のしおりコンテストの表彰式を図書館で行ってみてはどうか。本に囲まれている表彰式もよいと思う。
- ・ 前文で現行計画は「変化の激しい時代において」と述べていて、時代を先取りしている印象を持った。京都府は、子育て日本一を目指しているのであるから、例えば生涯にわたって府民の文化を支えるとか、もう少し大きな視点が必要ではないか。

(5) 今後のスケジュールについて

今回は、第2回を11月ごろの開催予定